

エコファーマスター 活動報告書



Earth

Conscious

Family

(社) 埼玉中央青年会議所11月第1例会

JCI  **エコファ・サミット**

～われら地球サポーター、地域の力が世界を変える～

エコファマスター-羽石さん

江戸里神楽学生実行委員会

伝統芸能を娯楽的な文化資産にしていきたい。
どうしたらこの資産の価値を、
分かりやすく伝えていけるだろうか。

◎具体的な活動内容

江戸里神楽という伝統芸能は、東京中心に、埼玉、千葉、神奈川で伝承されている神楽芸の一形式です。埼玉では東京と隣接した地点に伝承されています。この神楽芸の映像記録ならびに舞台化するための企画、広報などが主な活動となっています。

◎始めたきっかけ

伝統芸能の普及は、主として文化財的な視点から企画されることが多いのですが、娯楽的な視点があった方が理解しやすいのでは、ということから、2007年8月から協議を重ねながら、公演を実践の場として企画しています。このことによって、関係する皆さんによる、公演実現の結／ゆいが出来上がってきました。アイデアをひねりだす学生、企業の協賛金協力、観客、周囲の応援団の四者がまとまりました。

◎工夫と苦勞

工夫は、伝統芸能というものを文化財としないで、私たちの社会が引き継いできた文化資産と考え、資産活用のためのアイデアを考えだすことであります。どうしたら、誰もがこの継承されてきた資産の価値をわかりやすく、楽しく伝えていけるかを考えています。苦勞はアイデアの枯渇とお金の枯渇だけです。したがって、問題としては単純だと考えています。アイデアは新しい学生スタッフ一人一人がアイデアを持ち込んできますから、スタッフが入ればアイデアがあふれてくる仕組みになっています。お金は、この種の活動では潤沢になるわけがないので、いつもお金で苦勞すると考えておけば、心の負担にはなってはいません。

◎その他伝えたいこと。

芸能公演活動を通じて考えていることは、一つの地域を様々な人たちが支えたと同じように、一つの公演を様々な地域の方々が、様々な立場の方々が支えてくださっている、という公式に出会えたことです。この公式をうまく機能させていくためには、広く、そして浅く協力者を募りながら、深く価値のある結果を生み出す覚悟を持つことだと思っています。公演は演ずる者、支援する企業、見守る観客、下支えする学生実行委員会が一同に介して、一つの縁を確認し知らぬ同士の結び直しの機会だと考えております。



江戸里神楽学生実行委員会の皆さん

監修：斉藤 修平

所属：埼玉県立歴史と民族の博物館（専門員）

電話：048-645-8171

エコファーマスターー濱田さん

錦乃原桜草保存会

桜草はさいたま市の花
色の濃い錦乃原桜草を、
広くPRしていきたい。

◎具体的な活動内容

さいたま市二ツ宮地区の荒川左岸河川敷には、かつて6ヘクタールにもおよぶ目や草原に日本桜草の自生地があり、昭和9年に「国の天然記念物 馬宮村桜草自生地」の指定を受けました。しかし、終戦前後の食料難により自生地は開墾されてしまい桜草は消滅。昭和26年には天然記念物指定解除されてしまいました。

以来半世紀余り、消滅を惜しんで少量の桜草を自宅にて世話をし保存し続けてきた桜草愛好家から復活の声があり、平成6年に錦乃原桜草保存会を設立し、桜草の保護と育成・桜草自生地の復活事業に取り組んでまいりました。

実施にあたっては役員30名程が主体となり、桜草の苗の増殖育成管理と桜草園の造成に努力してきました。

会が発足して以来、今年で15周年を迎えるまでになり、桜草園も園全面に濃いピンク色の可憐な花が芽や若葉の緑と野ウルシ・タンポポの黄色い花の小群落が広がり、大勢の来園者に喜ばれてます。

◎始めたきっかけ

消滅前の錦乃原種桜草を半世紀の長い間、自宅の庭先にて保護育成されてきた方が地区内に60名ほどあり、苗の提供が受けられたこと。未だ、桜草自生地の経験者がいたこと。自生地復活の用地が約1万ヘクタール確保できたこと。

◎工夫と苦労

桜草園復活には、5万～10万本からの苗の増殖が必要であるため、芽の増殖技術の研究や芽分けでの苗の確保に大変手間隙がかかります。平成12年頃から実生（種から）による苗の育成を始め、以来毎年5千～7千本の苗の育成に成功しました。

桜草の種は4千粒で1gと非常に小さく扱いが難しいので、ホルモン処理等の工夫をしています。桜草園に移植するまでに2回の植え替えを要します。

桜草は暑さと旱魃（かんばつ）に弱い為、管理が必要です。河川敷内のため、毎年の台風による洪水被害の復旧作業があります。園内の草刈作業や、2月の苗の移植の時期の寒さがこたえます。

◎その他伝えたいこと

桜草はさいたま市の花です。田島ヶ原桜草は有名ですが、錦乃原はPR不足で知られていないのが現状で、広くPRしていきたいと思えます。特に錦乃原桜草は花の色が濃い（ピンク色が濃い）ので大変可愛らしく、大勢の皆さんに観賞して楽しんでいただきたいと思います。



濱田 恒夫さん
所属：錦乃原桜草保存会
電話：048-624-4255



エコファーマスター－布施さん

NPO法人元荒川をきれいにする会

毎月の清掃活動から始め、 今ではNPO法人化するまでに ”みんなの川はみんなで守ろう！”

◎具体的な活動内容

元荒川周辺の清掃活動を通じて、元荒川の浄化と地域住民の環境に対する意識改革に寄与すると共に、社会教育（地元の小学校の総合学習等）の推進を図っています。今年は、さいたま市立城北小学校で元荒川や赤間森の自然観察を、また城南小学校では元荒川緑地の希少植物の観察や元荒川の水質検査などの学習を行いました。

活動を通じて環境の保全を図り、次世代を担う子供たちにも、生きもの全ての命の根源となる水資源の重要性を理解してもらい、大切な岩槻の資産である元荒川をきれいにしています。

定期的な活動としては、毎月、河川敷の清掃を行っています。特に10月26日に行われた「川きれい大作戦」では、雨模様にもかかわらず多くの方の参加に参加していただき、ビニール類、ビン・缶、粗大ごみに分別してゴミを拾いながら清掃を行いました。

3月に実施している「元荒川ウォーク」においては、市民及び市外から訪れた参加者に美しい元荒川の景観を見て感じてもらうと同時に、城下町岩槻の素晴らしさを発信しています。3月は、「岩槻雛めぐり」が岩槻全体で開催されているので、元荒川ウォークの地図を作って町を訪れるかたに利用していただきながら、雛人形、土産物店、お食事どころ、お寺、史跡等を紹介の紹介し、活力ある商店街、緑の街づくりに寄与しています。

岩槻区民まつりにおいては、元荒川の景観、生きもの（わたり鳥、昆虫、さかな類、植物）などを展示するなど、元荒川を大切にする活動報告も行っています。

◎始めたきっかけ

子供のころからいつも元荒川を見て、遊んできました。黄色いソウルシが一面に咲く河川敷ではフジバカマを抱えきれないほど摘んだり、ケイナ砂の浅瀬ではシジミ採りをしたりと、元荒川にまつわる色々な思い出があります。しかし、高度経済成長の折、産業廃棄物が捨てられたり、資材置き場になったりと、河川敷の不法利用の問題が深刻化しました。当時はいつも新曲輪橋を通るたび、心が痛んでおりました。それらの問題解決に悩んだ結果、自分がやればよい、という考えがわき、友人10人余りに声をかけたところ、やりましようとして協力してくれました。最初は、毎月の清掃活動を行うことから始め、一步步活動を積み重ねて団体をNPO法人化するまでになりました。

◎工夫と苦労

代表として、会員が楽しくボランティアができるよう、個人それぞれの考えや、興味があること、好きなことを把握するようにしています。たとえば釣りが好き、自然が好き、虫が好き、鳥が好き、土いじりが好き、きれいにすることが好き、といった具合に、好きな分野、得意な分野を活動に生かせるよう、遊び心を大切にしています。私は画家でもあります、その画家としてのイメージ力、発想力を生かし、楽しく活動できる工夫をしています。区民祭りでは、魚釣りが得意な会員に魚をとってきてもらい、ザリガニ釣りや魚すくい大会、昆虫標本などをおこないました。元荒川ウォークにおいても、芋煮会を含め岩槻ならではのオリジナリティあふれるイベントとなっています。

苦労している点としては、会員のモチベーションを保ち続けることです。上記の、楽しく活動できる工夫も、モチベーションを持続させることにつながる取り組みです。

◎その他伝えたいこと

元荒川河川敷には県有地があります。そこは粗大ごみや廃棄物の山でした。その土地を、県と共同で広い緑の広場にしました。間伐材を利用した丸太のテーブル・ベンチを置いて憩いのスペースが生まれました。これはワークショップを開いたときのアイディアが元になっています。地域住民のためのスペースを作り、そこから元荒川が変わるきっかけを作っていきたい、という願いがこの広場に込められています。

私たちは「みんなの川はみんなで守ろう」というキャッチフレーズを掲げて活動を行っています。これは、川だけではなく、すべてのコミュニティに当てはまることだと思います。私たち地域の住民が、力を合わせて地域を守っていく時代にきているのではないのでしょうか。これからは、みんなの力が必要なのです。



布施 雅子さん
所属：NPO法人元荒川をきれいにする会
電話：048-756-0345

エコファーマスター－堀さん

NPO法人食生活カウンセラーの会

**社会における「食」の問題点を、
栄養士の立場で分析して
解決方法を考えています。**

◎具体的な活動内容

管理栄養士・栄養士が約30名、地域の人たちが健康な食生活を送れるように、専門性を活かした社会貢献・地域貢献をしています。

生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症など）は、今は学童期からその傾向が見られ社会問題になっています。また、今年度から特定保健検診・保健指導が実施され、メタボリックシンドロームの方の食生活の見直しが注目を浴びています。毎日の食事を見直すだけで、食生活からくる健康状態はかなり改善されます。特定保健指導のグループ支援をするべく、弊会では特定保健指導に添ったプログラムを作り、モニターをお願いをして予行演習をするなど積極的に取り組んでいます。

また、核家族が進み、親から子へ食を含めた子育ての伝承が途切れてきています。子育てに自信のない若いお母さんに向けてヘルシーパスポートを作り、子どもの食の疑問点や偏食の事など、サポートしていく体制を組んでいます。

その他コープネットの献立提案や健康保険組合のアドバイスレターの作成をしています。

◎始めたきっかけ

栄養士として地域で出来ることはないだろうかということで、生活習慣病予防の講習会をしました。

◎工夫と苦労

工夫している点は、子育て真っ最中のお母さん栄養士ばかりですから、家でパソコンを使ってできる仕事を主流にしています。そのためパソコンを駆使して、現代の食生活の分析や問題点の収集、情報を共有するためにメーリングリストを利用しています。

困っている点は、小さい組織ですから事務員や営業担当を抱える余裕はありません。メンバー全員が管理栄養士・栄養士のため営業力が全くなく、様々なヘルスプログラムを商品化しても、広く知らせたり売り込んだりすることが出来ないのが一番の悩みです。

◎その他伝えたいこと。

同業種、異業種の方々と出来るところからコラボレーションをしたいと思っています。



堀 啓さん
所属：NPO法人食生活カウンセラーの会
電話：048-844-6313

エコファーマスター－本田さん

生態系で「ごみ」をつくるのは人類だけ 「見えないごみ(CO₂)」を減らして、 人類に未来を！

◎具体的な活動内容

【個人として】ごみを減らして見えないごみ(CO₂?)を減らすこと。2007年の「燃やせるごみ」は、年間44kgでした。(一日一人60g。専用ごみ袋の「小」(15リットル)1袋を、1ヵ月に1回出します。
＜生ごみは出さない＞EM菌を使って土に戻します。大事なことは、食べ残しなど調理物と分けて水切りをすること。毎日(新鮮なうちに)処理すること。我が家では、年間100～200kgのごみ減量に役立っています。
＜一般プラの分別＞平成18年10月から、「一般プラ」(容器・包装)の回収が始まりました。年間約50kgの減量。
＜楽しみをつくる＞米粒を取り分けて堀の上に置き、ミニバードウォッチングをしています。楽しくなければ取り組みは続きません。
【さって市民環境ネットとして】学校での出前授業、公民館での環境講座などを実施しています。また、ごみの削減を兼ねた公園などの落葉を使つての腐葉土を作りや、月1回のジャガイモ・サツマイモの栽培、行幸湖(みゆきこ)での浮島設置なども行っています。
【いきいき環境クラブとして】環境家計簿をつかった取り組みを行っています。また、国交省が実施するイベントへの協力や、月1回の例会における社会科見学も実施しています。

◎始めたきっかけ

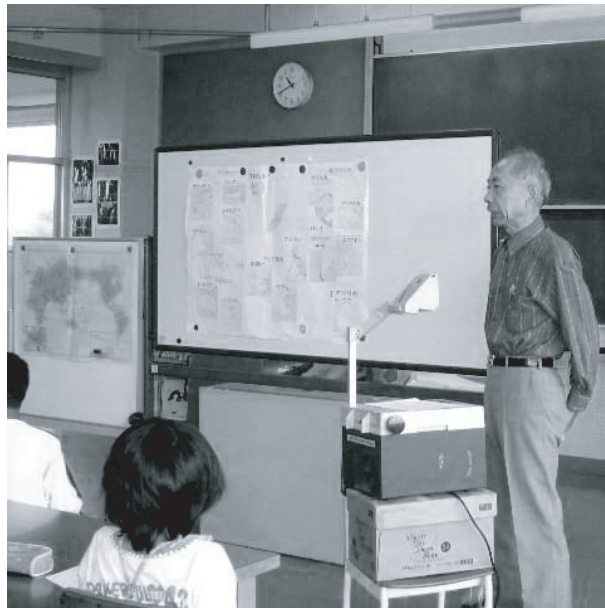
【個人として】2000年から環境家計簿をつけ始め、2004年からは「ごみ」の計量を始めました。それまで週2回のごみ出し日には、必ず出していました。しかし狭い庭しか無い我が家でも、EM菌を使えばなんとかなりそうだ、ということで、ごみの減量を始めました。無理をしないで続けることを心がけました。
【さって市民環境ネットとして】幸手市が環境基本計画を策定するに当たり、市民の意見を反映することを目的に幸手市市民環境会議が設立されました。議論を進めるうち、それを市民の手で実践していこう、という気運が高まり、新たな参加者も加えて、さって市民環境ネットが生まれました。
【いきいき環境クラブとして】いきがい大学伊奈学園環境科で学んだ仲間が卒業と同時に、環境活動に軸足を置いた活動を始めることになりました。

◎工夫と苦労

【個人として】剪定した枝葉や草などは、乾いてから出すようにしています。ごみの量が減って、月に1度しか出さないのも、その間ごみをためておくことになります。猫の額の庭をどう使うのか、ごみの「半製品」をどこに置くか、抵抗勢力(妻)と闘いながら工夫をしています。
毎日、手間がかかります。時間をとります。「ごみ」だから、と思うと、無駄なことをしているように思えてきます。有料化されても、生ごみ処理をするより、そのまま捨ててしまう方が安くつきます。忙しく暮らしていると思っている人には向かないかもしれません。スローライフへ気持ちを切り替えることが必要です。
【さって市民環境ネットとして】将来を託する子どもたちに、「思い」を伝えることを強く願っています。イベントでは、積極的に子どもたちの参加を呼びかけ、子どもたちが主役になるように心がけています。
【いきいき環境クラブとして】「始めるのも、止めるのもやさしい、続けることこそ難しい」「知っているのと実行するのでは、天と地ほどの開きがある」ということをモットーにしています。

◎その他伝えたいこと

幸手市では、2006年10月に「ごみ有料化」と「プラの分別」を始めて、年間約3000t(20%)もの「ごみ」が減りました。週2回の「燃やせるごみ」の回収が1回になれば、回収費用も削減できます。私は、仲間と「生ごみ処理」の普及をしています。残念ながら、市は今年度から助成金を打ち切りました。生態系では、「ごみ」は無い、「ごみ」をつくるのは人類だけ、といいます。「ごみ」、そして「見えないごみ(CO₂?)」を減らして、人類に未来を！



本田 宏さん
所属：さって市民環境ネット
電話：0480-42-8412

エコファーマスター－松岡さん

5人家族で楽しく工夫し、
あきらめないで続けてきた。
人との出会いが楽しいです

まだまだあつて書ききれません！

◎具体的な活動内容

- ☆5人家族で楽しく工夫した結果、1/3以上の削減（4人家族の平均より低い）した。
- ☆1999年をベースに電気・ガス・水道の環境家計簿をつけ続けている。（使用量と金額の表とグラフで）
- ☆仲間たちからの推薦で、埼玉県地球環境温暖化防止活動員に。CO2削減と世界のいのちのため「2008年・アースデイin川越」「北公民館かんきょう祭り」に我家の1999年からの環境家計簿の啓発を出展。
- ☆1台目のクーラー購入を2000年7月考えたが、その前に手はないかと考え、すだれ・よしず、緑のカーテンで、2008年の夏もクーラー0台、扇風機の使用回数減。
- ☆うちわ、打ち水、廃棄のすだれの活用など。
- ☆雨水の活用（畑の水遣り、洗車、打ち水）
- ☆生ゴミを堆肥にして、畑（庭）で野菜作り。
- ☆平和を考えてもらうために"アースデイ"ではアフガニスタンの子供たちの写真展で現地の様子をうったえかける。
- ☆毎月グループで、平和と自分たちの日常を考えるミーティング開催。行動は自転車と電車で。

◎始めたきっかけ

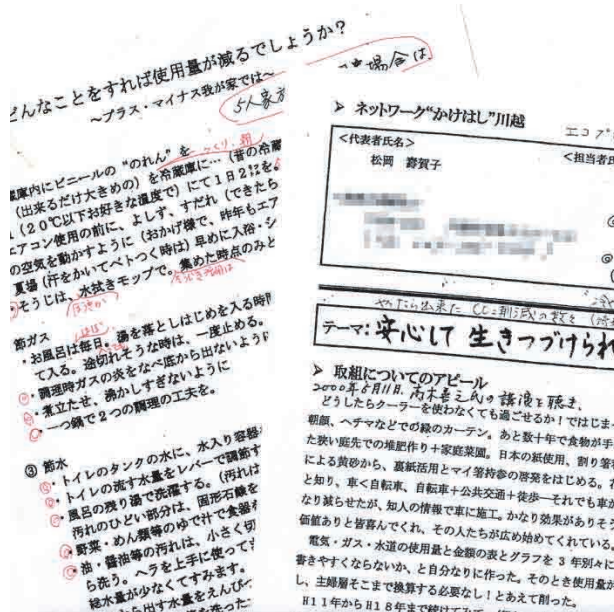
2000年5月に聴いた講演会で感銘を受けおぼろげに「そんな時代」が来るであろうと思いついた。30年後の子供、孫、ひ孫のために何とかしておきたい！と動き始めた。

◎工夫と苦労

- ☆どのようにしたら自分の実践・行動が人に伝わっていくのか。その人からも周りの人に伝え行動をして起こしてくれるように試行錯誤しています。
- ☆実践して効果ありと思ったことは仲間や知人・友人・隣人たち、縁のある人たちに伝える。
- ☆とにかく多くの方たちの話を聴き、自分に取り入れられるようにしている。

◎その他伝えたいこと

あきらめないで続けてみる。失敗したら何がどう駄目だったのかを考え、成功につなげていく。仲良く楽しく自分自身がゲーム感覚で楽しんでいます。人との出会いが楽しいです。



すがこ
松岡 寿賀子さん
所属：ネットワーク"かけはし"川越
電話：049-246-7164

エコファ・サミット 開催宣言文 「エコファ埼玉中央宣言」

一人の地道な行動が、やがて地域を、社会を、そして世界を変えていきます。

人間の未来も、地球の未来も、すべて自分自身の中にあるのであって、それは自分自身が築いていかなければならないのです。

私たちをとりまく問題の一つ一つは、すべて人間の手で作り出したものです。

私たちは、同じ人としてその責任を感じ、その解決を自らの使命として、未来の子どもたちのために、地球のために、できることを進んで実践します。

私たちは、自分の地域社会をより住みやすい、心の休まる地域にしていくことが、いかに地味であっても、確実に、地球を守るため、心の平和のために役立つものと信じ、以下のことを宣言いたします。

～～～↓ここからご一緒にどうぞ～～～

- 一、私たちは、一番身近な場所を大切に、そこに
いる人々のために自分のできることに取り組みます。
(家庭・地域密着)
- 一、私たちは、目の前の問題に対し、誰かがやってく
れるだろうと思わず、自分がやると決意し、行動
します。(自立・自発)
- 一、私たちは、仕方がないという思いを止め、
間違っただけや、あきらめていた問題に対
しても、勇気を持って行動を起こします。
(正義・能動)
- 一、私たちは、その行動を通して、隣人に呼
びかけ、まわりの人々に共感の輪を広げ
ていきます。(発信・共感)
- 一、私たちは、お互いに声を掛け合い、
絶対にあきらめず、未来のこどもたち、
そして地球のために行動し続けます。
(団結・継続)

2008年11月9日

エコファ埼玉中央宣言

Earth

conscious

Family



社団法人

埼玉中央青年会議所

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目7番5号

ソニックシティビルB1私書箱66号

TEL.048(647)3315 FAX.048(647)3316

<http://www.jc.766.com>

